

# 連珠っておもしろい

## 九段 河村典彦

### ● 第108回 ●

#### ■ 強い！牧野五段

今回は、只今急成長の牧野五段（現在六段申請中）について語ってみよう。いつもの間にか強くなった感じだが、いつから来てたんだろ？と不思議に思いついて調べてみた。

まずは京都連珠会初登場はいつか、と調べたら、19年2月例会であった。当日は七番勝負のメンバーが数名来られており、牧野さんもその一人であった。当然将棋勢なのだが、その時はプロだと言われてもピンと来なかった。将棋のプロなら将棋の普及が第一なので、連珠を極めることになる。は想像できなかったからだ。まあ私もプロの棋士とは何人か付き合いがあるが、ちよつと変わった人が多いの

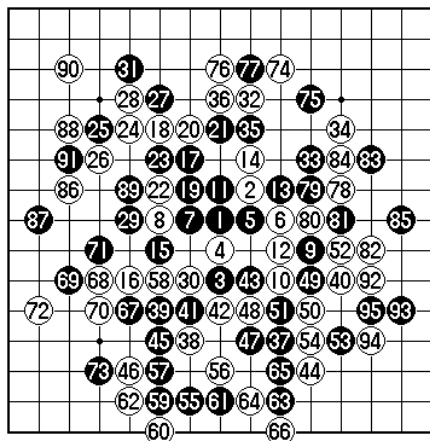
でたいていのことには驚かないが、ここまで連珠にどっぷりはまるとは想像できなかった。

将棋連盟のHPを拝見すると、牧野さんは88年4月生まれということだから当時30歳だったことになる。以後牧野さんは例会に欠かさず参加することになる。翌月の3月は登竜門戦があり、ぜひ出てほしいとリクエストした記憶がある。当時から読む力は備わっていたので、登竜門ほどの程度の成績を残せるか興味があった。

登竜門の結果は2位。当時ライバルの紀藤君が優勝して初段になっている。その中の一局が珠友に掲載されている。

黒・紀藤 白・牧野  
黒95にて満局

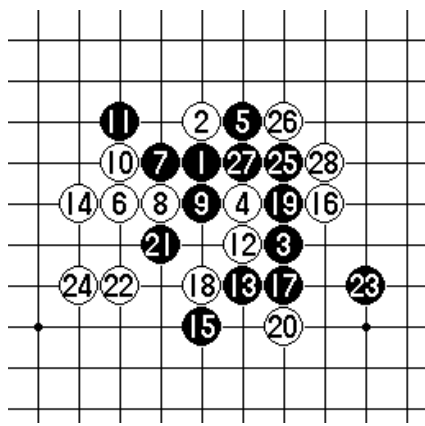
最初に紀藤君と当たったが、結果は満局だった。この局の着手は急所には来ていないが、何か正解を探しな



がら打っているような感じで、まだ打ち方がわかっていないのだろう。いやそれでも初めて2か月目での打ち方としては凄いな。本大会は参加者が少なかつたので2回同じ選手と打つたのだが、2回目は紀藤君に負けての2位だった。

ている。並みの高段者なら互角に戦えていたというところである。私との局は遊星でスタートした。

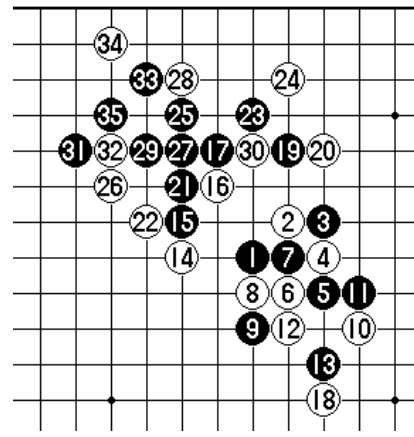
黒・牧野 白・河村  
白24にて黒投了



私が仮先で遊星を指定すると、白4と六題を指定。この頃から相手に白4を打たせない姿勢は変わっていない。とは言え、まだ五珠を探すのに苦労していた時代で、研究の白6を食らっては、読みの力だけでは打開できない。黒23も勘違いで、白24と含まれては防ぎがない。

そしてこの年の11月に初のクラス別大会に参加することになる。この時は東京から藤田麻衣子さんにわざわざ来ていただいたので、ライバル対決が注目された。

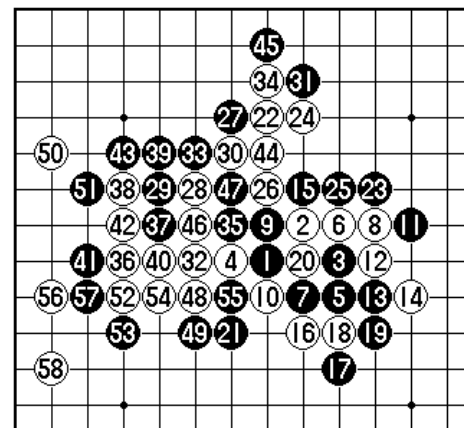
黒・藤田 白・牧野  
黒35にて白投了



両者3勝1敗で決定戦となった。本局は決定戦で、牧野さんは手堅く打ったと思うが、黒に軽快に展開され、負けてしまった。しかし、2位となり、ここでもうやく初段を獲得している。その1年後に五段まで駆け上がるのだが、この時は想

像できなかつた。(藤井聡太君よりも速いスピードだ) さて、20年は本格的に棋戦で勝ちまくる予感がしていたが、コロナの影響で登竜門戦が中止となってしまう。その間に本人はすくなく成長したのであろう、1次予選、2次予選を勝ち抜いてあつという間にA級棋士になってしまったのは皆の知る所である。では、その2次予選から成長ぶりを見てみよう。

黒・長谷川 白・牧野  
白58にて黒投了

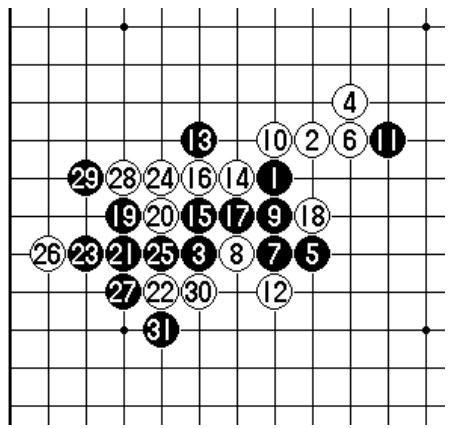


この頃になると序盤の研究も追いついてきて、我々が知らない形も詳しくなってきた。黒5は一見良さそうだが、白6、8で案外難しい。白22、24の構想は非凡で、白の方が常に一歩先行く展開となった。

長谷川九段の連続出場記録もかかっていたが、牧野さんの勢いの方がまさった。私が最近感じるのは、防ぎの方もうまくなってきたり、鋭い攻めが持ち味だったが、防ぎの方もかなり上達しているようだ。かねてから、「攻めは読み、受けは感覚」と思っているのですが、防ぎは難しいと思うのだが、牧野さんはかなり適応している

と見受けられる。この総合力がなければA級では戦えないので、勝ち越しの成績を残したという事は攻めも防ぎも一級品になった証拠だろう。私との最新の一

局をご紹介しよう。  
黒・牧野 白・河村  
黒31にて白投了



関西選手権2次予選からの一局。相手が知らないと思つて彗星を指定したのだが、当然対応して反撃してきた。この4は記憶のなかにあつてほとんど忘れていた。ただ、ガイドには黒9では10だったので、新研究を披露された。かなり長考して黒11、19を読み込んだが、想像の上を行かれた。強い！その一言である。